

新潟(本土)を離れて

米倉直志*

1. はじめに

平成14年度4月に新潟県に土木職として採用されて、上越土木事務所に4年間勤務した後、平成17年度4月から平成20年度3月までの3年間、土木部河川管理課に勤務しました。河川管理課に異動となった年に、当時土木部河川管理課長および当研究会幹事長を務めておられました佐藤成昭様の勧めもありまして、新潟応用地質研究会に参加させていただきました。今年4月からは、佐渡地域振興局地域整備部(港湾空港)に異動となりました。新潟県の職員として新潟を離れることはありませんが、佐渡への異動ということもあり事務局より原稿の依頼がありました。「新潟(本土)をはなれて」として稚拙な文章かとおもいますが、おもうところを述べさせていただきます。

2. 応用地質研究会について

応用地質研究会に行事担当幹事として参加させていただき、地質のみにとどまらず、新潟の文化、歴史、郷土など多くのことを学ばせていただきました。また、職場の枠を超えて幹事の皆様をはじめ会員の方々との幅広い交流を得ることができました。県職員ということもあり、飲み会を含め行事等に積極的に参加することが難しく他の幹事の皆様にはご迷惑をおかけしたこともあるかとおもいますが、幹事の一員として新潟応用地質研究会に参加させていただいた3年間は私にとって大変有意義な時間であったとおもいます。

3. 現在の状況について

佐渡では漁港課に配属となりました。今までは国土交通省の補助事業を行っていたのですが、農林水産省の補助事業へとかわりました。漁港の仕事はこれまでの土木の仕事と違い、一種特殊なところがあります。早く慣れるよう業務に励んでいるところです。

話は変わりますが、勤務庁舎が両津港の佐渡汽船乗り場のすぐ近くに 있습니다。その立地条件から釣りをしている人を多く見かけます。せっかくの機会なので道具一式を揃え釣りはじめてみました。小学校以来ですが、以外にも素人の私に釣られる魚も多くいます。この秋はスミイカの刺身を美味しくいただくことができました。

4. おわりに

新潟をはなれたといっても本土をはなれたというだけで同じ新潟県です。研究会に参加するには、やや不便ではありますが、機会があれば活動に参加させていただきたくおもいます。また、見学会で佐渡に来るようなことがあれば案内できるかとおもいます。最後になりましたが、新潟応用地質研究会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念しております。

*新潟県佐渡地域振興局地域整備部